

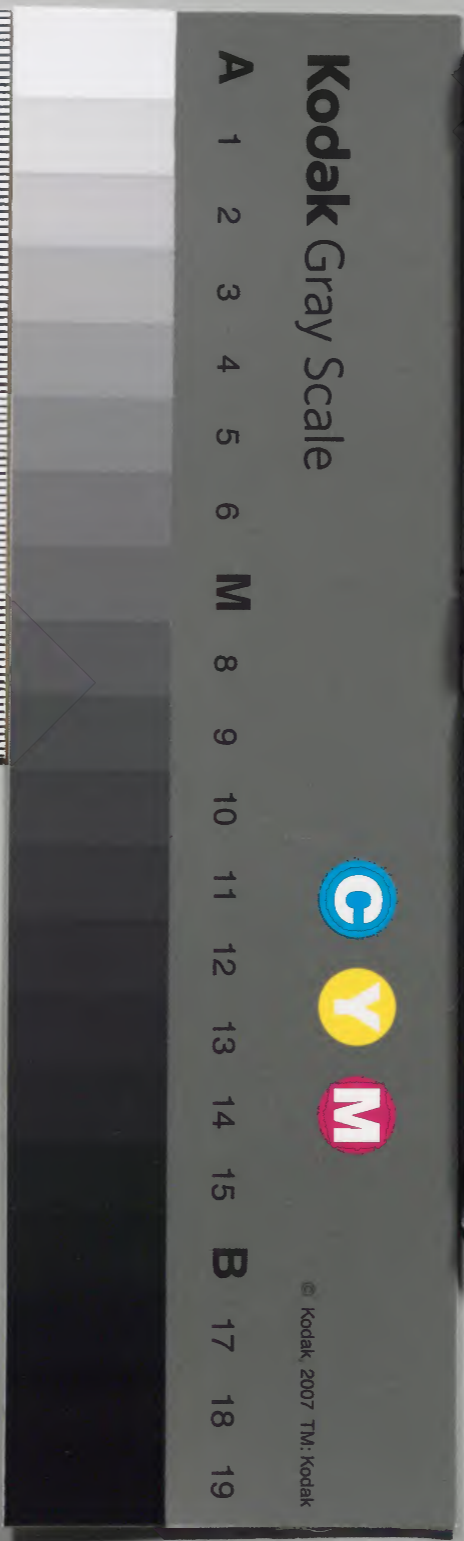
林逸抄 横笛 廿七

| | | | | |
|------|--------|------|-----|-----|
| 和書門類 | 一七六九七號 | 一八〇函 | 一三架 | 五四册 |
|------|--------|------|-----|-----|

| | | | | |
|------|-----|--------|-----|------|
| 內閣文庫 | 和書類 | 一七六九七號 | 五四册 | 二〇三函 |
|------|-----|--------|-----|------|

吉

| | | |
|------|-----|--------|
| 內閣文庫 | 番號和 | 17697 |
| 冊數 | 54 | (37) |
| 函號 | 203 | 16 |



横笛 ヨコフエ 廿二

以吹る冬名詞よめあり笛と云りあり原

氏四十九歳时也云り二歳也 元 引と笛のあはら

しつりやねとひひしめ 極くは清きもの

柏木のきよきと十八の秋すきの事ありはきよき

次の年れきより秋すきなるもある也はきよきと云り

ハ二歳と白きと葉と云り

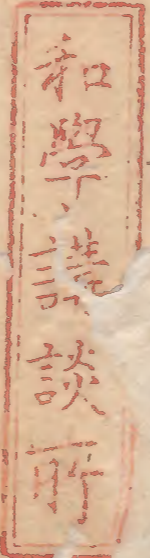
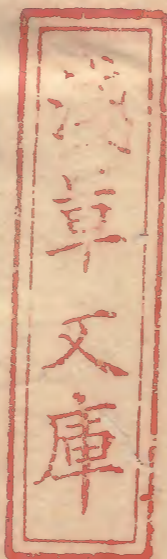
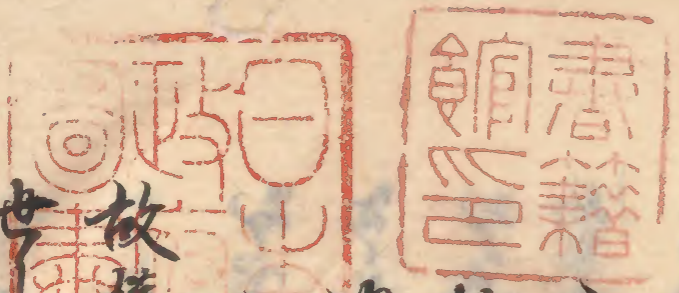
故權大納言一 巻の巻ゆくくしひし

世のりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

死くもの行と況柏木の事と云

いふもや一 巻の巻の巻道のもの

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく



いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

いづれにたれなりありありと一葉の半し二葉く

世にこれ一考 昔に於て一説に居行の守りも後
世に一考 宛せしむるにありしやと云ふ所のありしを
るるたる之の道名なるに因りて其の所のしるべき
と云ふるにありし

いかにあるにありし一は其の所にありし
またいかにありしにありしにありし
と云ふにありしにありしにありし

いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし

いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし

いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし

いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし

いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし
いかにありしにありしにありしにありし

しんせふらー一 方引の世らあわおんくま
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
老くまのり

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The ink is dark, and the paper shows signs of wear and discoloration.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The ink is dark, and the paper shows signs of wear and discoloration.

一東のまよと一冬暮れ為家の言成るやの如く
しらけあやうと一東のまよと一冬暮れとてい

かこもさあやうと一冬暮れとてい
しんせきあしおれくさなとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

まよのまよと一冬暮れとてい
しらけあやうと一冬暮れとてい
おのちのちうらとてい

こゆー 夕暮のふとりの 柗木の半海女のふとりの
かまのうしほめりしり

琴のうしやうー 夕暮れ琴のうしやうー かりぬく

れねあうー 夕暮の夕の 夕暮の柗木のうしやうー 夕暮

柗木の夕暮のうしやうー 夕暮れ琴のうしやうー 夕暮

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮に琴のうしやうー

かこれおのうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 琵琶行

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 柗木のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 柗木のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 柗木のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー 夕暮のうしやうー

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

あはれにうゑのちからをこころに
けりしはけりしを

ちの母のあはれなりとて
いふことなきこと
おのきこしに
あはれなること
あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれ

あはれなること

あはれなること

あはれ

あはれなること

あはれなること

あはれ

あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれなること

あはれなること

はらうーぬー又音のこまのいふこのねよりて
身のけり^呼も身にしるくいひ合ぬと早下^呼
身しるくーは音は^呼音のりらけー音と音

和

ふまのうー^呼ー^呼音のいひー^呼和のうーのふま
也は音のまのうー^呼音のいひ^呼えふま^呼と音の
とふん^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の

ふまのうー^呼ー^呼音のいひ^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の
音のうー^呼ー^呼音のうー^呼音のうー^呼音の

ふまのうー^呼ー^呼音のいひ^呼音のうー^呼音の
横笛一声天地秋^呼 国史云仁明天皇
兼和元年正月辛未内宴於仁壽殿是夕初授正位
上天戸首清上外従五位下清上能吹横笛故頼恩^呼
今業横笛二子也^呼 じのく^呼 音のうー^呼音の

ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事

ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事
ふりまのりあひ、一を井るの事

これに源公忠の長辨は、
ひさしに病のりて、
水に身を沈め、
見ると、
ての、
何となく、
人の、
非とも、

佛の、
忘小野宮殿修、
位記、
草、
云、
有一、
龍、
笛、
蓋、
布、
代、
名、
物、

常、
也、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心

Handwritten text in cursive Japanese style, consisting of approximately 12 lines of vertical writing.

Handwritten text in cursive Japanese style, consisting of approximately 12 lines of vertical writing.

〜
もあ〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜

己のいひのいふまじき事いふはなむ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

いふまじき事いふ

竹の葉のしるし
或るか作らるる也
と云ふ

横笛松抄

